

情報提供・国内連携

◎ Information Services and Domestic Networking



ジャパンファウンデーションの事業の多くは他団体と協働して実施されますが国内の団体・機関・地方自治体等との連携をさらに強化しようと努めています。また、ジャパンファウンデーションの活動を広く知っていただき市民が参加できるように努めています。

アジアの漫画が国際理解教育の教材になった「マンガジア」(MANGA+ASIA)

ジャパンファウンデーションが1995年から11回にわたり開催した「アジア漫画展」の作品をもとに、財団法人名古屋国際センターとの共同制作で、国際理解教育教材が開発されました。インド、インドネシア、タイ、韓国、中国、フィリピン、マレーシア、日本の100点の漫画作品から、「多様性と同一性を理解し、多様性受容力を高める」「グローバルな視点から日本や自分をふりかえる」といった5つの学習のねらいを設定し、それを達成できるよう、テーマの設定、手法が開発されました。この教材は名古屋市立の全中学校・高校、および全国地域国際化協会加盟団体等に配布されました。

発行・制作：(財)名古屋国際センター、国際交流基金

編集協力：(財)愛知県国際交流協会、

独立行政法人国際協力機構中部国際センター

執筆・DTP：特定非営利活動法人NIED・国際理解教育センター



事業開発戦略室

事業開発戦略室は、2007年度には「CSR連携事業」および「知的財産を生かしたグッズの開発」に取り組みました。

「CSR連携事業」では、海外で活動する日系企業との連携・協力に向けて、海外における日系企業の社会貢献活動調査を実施しています。調査は2006年度の中国、韓国に続き、2007年度は英仏独のヨーロッパ3カ国およびタイ、インド、メキシコの6カ国で実施しました。また、中国において調査結果報告会の開催と報告書の作成を行い、在中国の日系企業間の情報共有化、ジャパンファウンデーションとの連携事業の推進等、日系企業による社会貢献活動促進のための協力をしています。

一方で、ジャパンファウンデーションの知的財産（デザイン等）を使用して「販売できる広報グッズ」の商品開

アジアのトップデザイナーによるシリーズ第2弾「てぬぐい」



『中国における日系企業の社会貢献活動に関する調査報告書』
(2008年6月刊行)

発を進め、2007年度はアジア5カ国のトップデザイナーによるシリーズ第2弾として、「てぬぐい」の製品化を行いました。「てぬぐい」は基金内での施設（JFIC、日本語国際センター、関西国際センター）だけでなく、全国7カ所の美術館で販売しています。

国内連携

創造の場シンポジウム『都市を刺激するアート』 文化交流による地域活性化のために～

今日、創造性は都市や地域の活性化に欠かせない要素として世界中で注目されています。そこで、ジャパンファウンデーションでは、地域での国際文化交流にもつながる「創造の場」を考えるため、3月9日に、金沢21世紀美術館との共催で『都市を刺激するアート』シンポジウムを開催しました。

パネリストは、秋元雄史氏（金沢21世紀美術館長）、遠藤水城氏（キュレーター、アーカス・プロジェクト ディレクター）、

エレヌ・ケルマシュター氏（在日フランス大使館 文化担当アタッシュ）、キム・スンヒ氏（フリーランスキュレーター）、カミン・ラーチャイプラサート氏（アーティスト、チェンマイ美術大学客員講師）の計5名、モデレーターは帆足亜紀氏（アートコーディネーター、国際交流基金JENESYS Programme・コーディネーター）。

世界各地で行われている刺激的なアート・プロジェクトが紹介されました。パネル・ディスカッションでは、誰もがアートに接し、参加できること、また自ら創造できることの重要性が共有されました。



京都支部

ジャパンファウンデーション発足と同時にその支部として開設された京都支部は、関西地区の関連団体とのネットワークの構築に取り組む一方、日本研究フェローシップによる招へい者のうち関西に滞在する者に対するフォローや、さまざまな自主事業を行っています。

関西地方での国際交流事業はますます盛んになってきており、また各国際交流活動団体のネットワークが進んでいます。京都支部でも、外部の諸団体と連携を深めています。

また、図書室をベースに国際文化交流情報を提供しています。図書室には6,804冊の蔵書とAV資料を備えています。

2007年度にはフェ



能と狂言の会
ローセミナーを関西地区で6回実施したほか、1973年から恒例の催しである「国際交流の夕べー能と狂言の会」（金剛能楽堂）を実施しました。

地球市民賞

本賞は、地域に根ざした国際交流のモデルとなりうる個人もしくは団体を顕賞することを目的として1985年に「国際交流基金地域交流振興賞」として設置されました。2004年度第20回目を迎え、また地域における国際文化交流活動が発展し、多様化していることから、名称を「国際交流基金地球市民賞」と改め、単なる交流や相互理解を超えて、地域の変革や活性化につながる国際的な地域間交流や文化

交流、相互理解の促進に貢献された団体・個人に贈呈しています（毎年、原則として3件顕彰）。

2007年度は、マスコミ、国際交流団体、自治体等各界から91件の推薦がよせられ、選考委員会の厳正な選考により受賞者が決定しました。



The Japan Foundation Prizes for Global Citizenship 2007

2007年度受賞者



芸術と計画会議 (C.A.P)

理事長 杉山知子

海外のアーティストの受け入れや交流を重ねるとともに、ユニークな国際共同プロジェクトを実施する等、アーティストが主導する芸術と地域を結ぶ活動を実践しています。



えひめグローバルネットワーク

代表 竹内よし子

地域の行政課題であった放置自転車を地方自治体から譲り受け、海外の紛争地域で武器を自転車に交換する等平和構築、復興支援に貢献しています。



アジア女性センター

理事長 堤かなめ

日本に在住する多国籍の女性たちの電話相談や緊急支援施設の運営とフェアトレード・カフェの運営というバランス感覚の取れた活動を実践しています。

ジャパンファウンデーションのホームページ

ホームページ

<http://www.jpff.go.jp>

ジャパンファウンデーションのウェブサイトです。最新の情報、海外事務所サイトへのリンク、アーティスト・イン・レジデンスへのリンク等があります。



ブログ 『地球を、開けよう。』

<http://d.hatena.ne.jp/japanfoundation>

文化交流の魅力を、みなさんと一緒に発見していくブログです。若手職員が現場から思いを伝えます。



メールマガジン

ジャパンファウンデーションの最新ニュースをタイムリーにお届けします。ウェブサイトからお申し込みができます。和文版と英文版があります。

『をちこち』(遠近)

隔月刊の国際文化交流専門誌



『をちこち(遠近)』の名称は、「あちらこちら・ここかしこ」「未来と現在」を意味するやまと言葉に由来しています。日本語・日本文化を海外に知らせ、もっと諸外国との相互理解を深めたい、「人と人」を結ぶ文化の架け橋としての役割を果たしたい。そんなジャパンファウンデーシ

ョンの思いをこめています。特集記事のほか、ジャパンファウンデーシンの活動報告等を掲載しています。1冊525円(税込)。

購読お申し込みは 山川出版社 Tel 03-3293-8131

2007年度に発行した特集

- 第16号 2007年4月 隣人、ロシア
- 第17号 2007年6月 酒は地球を回る
- 第18号 2007年8月 インドを解く
- 第19号 2007年10月 マンガからMANGAへ
- 第20号 2007年12月 フランス 都市の文化力
- 第21号 2008年2月 世界の「国民的女優」

JFICライブラリー

ジャパンファウンデーシンの実施事業に関する資料や、国際文化交流・文化政策に関する図書資料、外国語で書かれた日本を紹介する図書・映像資料等を所蔵しています。またライブラリー内にはジャパンファウンデーシンのグッズ類や刊行物を販売するJFICショップも併設しています。

開館時間：平日 10:00～19:00、
第3土曜 10:00～17:00(8月を除く)



JFICライブラリー Tel 03-5369-6086
臨時休館もありますのでお問合せください。

ジャパンファウンデーシンの見学

ジャパンファウンデーションでは、学生や、国際交流に関心のあるグループ等の見学を受け付けています。大学のゼミ等の一環としても、どうぞご利用ください。事前にどういったことを知りたいのかをお伝えいただければ、できるだけご要望にこたえる受け入れプログラムをご用意いたします。日本語国際センターや関西国際センターの見学も受け付けています。

お問い合わせ先：

- 情報センター Tel 03-5369-6075
- 日本語国際センター(埼玉県さいたま市)
総務課 Tel 048-834-1181
- 関西国際センター(大阪府泉南郡田尻町)
総務課 Tel 072-490-2601

JFサポーターズクラブ

JFサポーターズクラブ会員や一般の方々にジャパンファウンデーシンの活動や、国際文化交流についての情報を提供するために、セミナー等のイベントを原則として月1回のペースで開催しています。

2007年度には、日本語国際センターでの日本語教育研修会や授業見学会も実施しました。ボランティア等で日本語教育の経験があったり、日本語教育に関心の深い会員が、熱心に受講され、活発な意見交換を行いました。

また、隔月刊で「JFサポーターズクラブ通信」を発行し、最新の国際交流情報をお送りしています。

ご入会の案内は57頁をご覧ください。

